

第11回

# 仲間が楽しい介護施設



さかもと・せつお ● 1975年早稲田大学商学部卒。株博報堂入社。プロモーション企画実務、研究開発に従事の後、企業のソーシャルマーケティング開発を推進。2000年にエルター・ビジネス推進室、11年に新しい大人文化研究所を設立。さらに、19年に独立し当研究所を創設。現在、所長。著書『50歳を超えたらもう年をとらない46の法則』（講談社）や新書『シニアマーケティングはなぜうまくいかないのか？ 新しい大人消費が日本を動かす』（白経新聞出版社、韓国版、台湾版）他

今後利用者として「団塊の世代」が激増していくなか、新たな高齢者像を知り、介護ニーズを理解するため、団塊の世代の実情や志向、団塊の世代がもたらす介護現場への影響について解説します。

## 仲間大好き 団塊世代

団塊世代は仲間が大好きです。若い頃にジェネレーションギャップを引き起こした世代であり、親や学校は信用できない、仲間だけが信用できるところがありました。ビートルズも男の長髪もミニスカートも当時の大人世代からは反対され、ヨコの仲間だけがわかり合えるという感覚でした。ロックやフォークのバンドも団塊世代で本格的に始まりました。

この傾向は高齢者になっても同様です。団塊世代を含む60代が「今

後コミュニケーションを増やしたい相手」として孫と子供および配偶者が上位3位を占めるのは当然として、4位には「年齢を問わず

価値観を共有できる友人」、5位には「同世代のプライベートな友人」、6位には「趣味やスポーツなどを通じてできた友人」が入り、親や兄弟姉妹を上回っています（図表）。

米国最大のリタイアメントコミュニティ「サンシテイ」では、この仲間志向が活かされています。広大な敷地にゴルフコースがあつて住宅棟が点在し、趣味のクラブ活動が盛んです。10年ほど前から米国の団塊世代つまりベビー

ブーマーが主たる入居者になりました。

ところが施設運営には膨大な維持管理費がかかり、それを低減させるために始めたのが、入居者による自主管理です。入居者のなかから市長を選出し、消防団なども自主編成されました。介護施設でここまで考えるのは現実的とはいえませんが、うまく活用すれば、

- ・ 職員の負担を軽減する自主的なレクリエーション活動の運営
- ・ 地域に開かれた介護施設づくり
- ・ ボランティア・職員としての団塊世代の活用

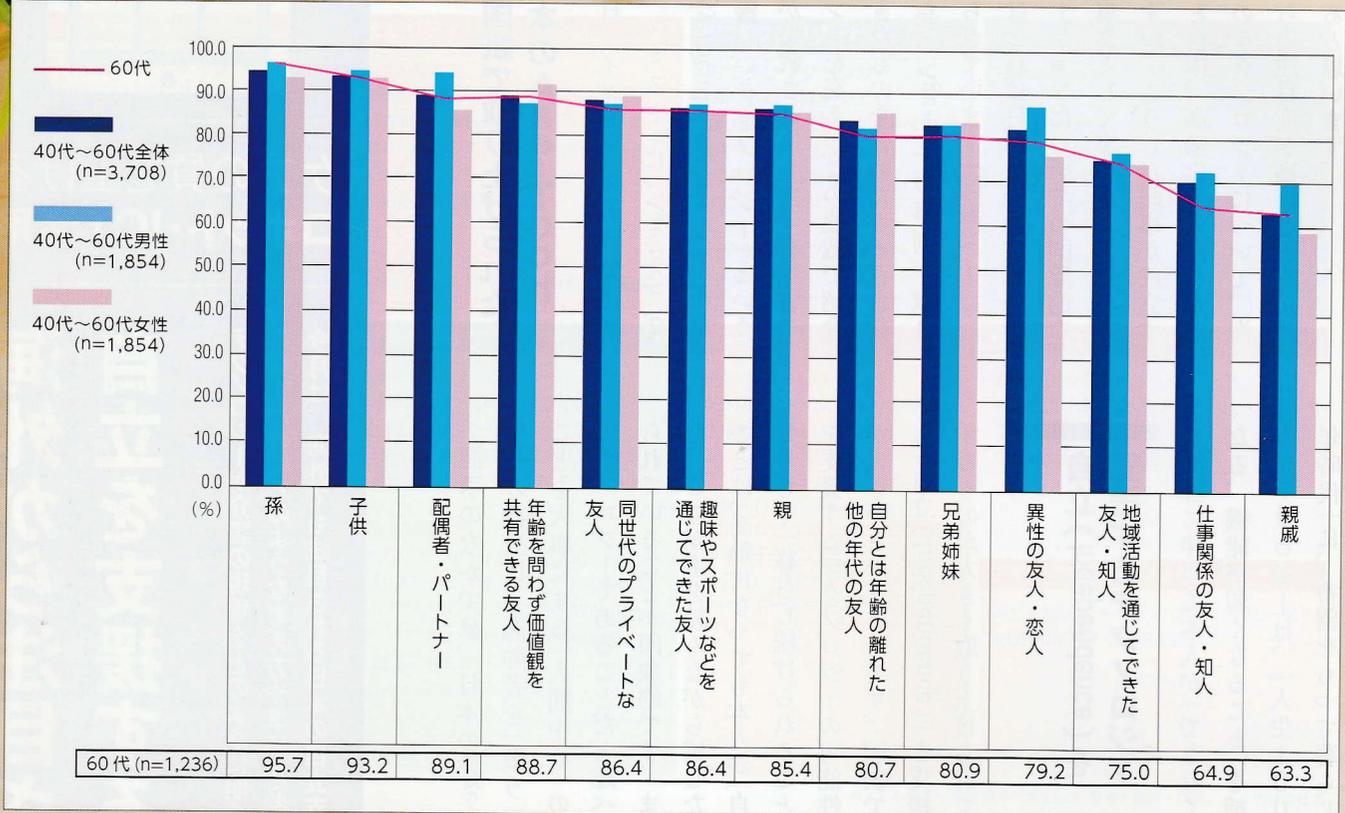
などにつながる可能性があります。

## 自主的なレクリエーション活動

夫婦や家族との関係性として、「友達夫婦・友達家族」を始めたのも団塊世代です。恋愛結婚が主流になり同年婚も多かつたことから「友達夫婦」になり、子供ができてからは「友達家族」の関係を築きました。乗用車でいえば、今は当たり前になった家族を乗せるワゴン車を本格的に使い始めたのも団塊世代です。仲間感覚が好きで、自発的に自分たちで楽しむ傾向になりやすいといえます。

レクリエーション活動をほぼす

図表 今後コミュニケーションを増やしたい相手



出典：博報堂新しい大人文化研究所調査

べて施設側が考えて職員が利用者を集めて声を枯らして指導、というのが従来の姿だったとすれば、団塊世代は自分たちで自主的にやってくれることも期待できます。麻雀や映画やフォーク・ニューミュージックなど同好の士が集まって自分たちで好きにやる。施設側はその場所や時間の配分をすればいいのです。入居者のファッションショーなどのイベントを自発的に開催することもあろうでしょう。

### 地域に開かれた介護施設

北九州市の「もやい聖友会」は特養としてさまざまな活動をしています。1階はカフェになっていて、地域の人も来て入居者と一緒におしゃべりを楽しんでいます。こうした「コミュニティカフェ」は地域に開かれた介護施設として今後大いに求められます。喫茶店好きの団塊にも合っています。

そのカフェに、親の介護や老々介護、介護離職などで悩む地域の人たちも来られるようにすれば、解決の知恵が見つかったり、悩みを和らげたりすることができる

しょう。入居者にとっても、相談に乗る側になることが生き甲斐になることもありそうです。まさに地域の介護拠点です。

### 同世代のボランティア、職員としての役割

これから人口減少に伴い、若い職員の確保がますます難しくなるといえます。そのときに、団塊世代はボランティアないし職員として期待できる面があります。

以前紹介したように、男性の要介護者に人気のヘルパーには2種類あり、一つは若い女性のヘルパー、もう一つは同世代の男性ヘルパーでした。戦争体験など若い頃の共通体験を語れるからです。その意味で、同世代がボランティアとして上記のカフェなどで話し相手になれば、若い職員の負担を減らすこともできますし、同世代が職員として世話をすることは安心感にもつながるでしょう。

団塊世代の仲間意識をうまく活用することができれば、施設側・職員側の負担を軽減し、活力を持った施設運営に寄与するものとなるでしょう。